

## はじめに、第1の柱

『多様で活力ある産業づくり』についてであります。

**産業振興**につきましては、市政発展の重要課題と位置づけ、引き続き、積極的に取り組んでまいります。

**物価高騰等**により、市内事業者を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあるため、市内商工団体など関係機関と連携して、経営安定に向けた支援を行ってまいります。

また、山陰道の開通や、大田市駅前周辺整備などをビジネスチャンスと捉え、起業や創業、豊かな地域資源を活用した新商品開発、市外への販路開拓など、積極的な事業展開を図る事業者等を支援してまいります。

**道の駅「ごいせ仁摩」**につきましては、令和4年1月の開業から5年目を迎えました。新年度からは、新たな指定管理者のもと再スタートを切ることとなります。

より多くの皆さまに訪れていただける道の駅とするため、市内事業者や地域住民との繋がりを強め、大田市の魅力をより一層発信できるよう、取り組んでまいります。

**大田の魅力ある「食」の発信**につきましては、令和元年度から「大田の大あなご」のブランド化に向けた取り組みを開始し、市内の提供店舗数や消費量の増加、取引価格の上昇など、大きな成果に繋がっています。

今後は、「三瓶そば」についても取り組みを強化し、商工会議所など関係機関と

共にブランド価値を高め、さらなる消費拡大や地域経済の活性化に繋げてまいります。

**観光**につきましては、国内旅行客と訪日外国人旅行客がともに増加傾向にあります。大田市が誇る文化や歴史、自然を感じる体験型旅行への観光需要の高まりを取り込むことで、観光消費額の増加など、市内の経済循環を図るとともに、来訪者に「また来たい」と選ばれ続ける観光地を目指し、三瓶地域、石見銀山地域、温泉津地域それぞれの特色を活かした取り組みを進めてまいります。

**日本遺産「神々や鬼たちが躍動する神話の世界」**につきましては、引き続き日本遺産としての認定を受けることとなりました。共同申請した石見9市町や島根県、島根県観光連盟などと連携し、見る者を魅了する石見神楽を活用した観光誘客を強化してまいります。

また、「**石見の火山が伝える悠久の歴史**」につきましては、今年度が認定期間の最終年度となります。日本遺産としての継続認定を受けるため、火山活動にまつわる22の構成文化財の周遊促進を図るとともに、地域による活用を支援し、さらなる地域活性化と観光振興に繋げてまいります。

**農林水産業**につきましては、大田市総合計画に基づき「稼ぐ農林水産業」を推進し、生産者の所得向上を図ってまいります。

**農業**につきましては、産地化を進める白ネギ、アスパラガス、ミニトマト、キャベツ等について、引き続き、生産基盤の強化に向けて支援するとともに、大手EC

サイトとの連携により拡大した販路を通じて、大田市産農産物の認知度や生産者の所得の向上を図ってまいります。

また、農業機械メーカーと連携した有機米の栽培実証が進んでいるほか、企業参入による有機野菜の栽培が始まります。こうした取り組みを通じて有機農業や循環型農業の推進などに努めてまいります。

**畜産業**につきましては、酪農や採卵鶏は県下有数の産地であり、肉用牛についても市内への大規模農場の進出を受け、飼養頭数が増加しています。なかでも、昨年9月に開催された島根県種畜共進会において、大田市から出品された和牛全頭が優秀賞を獲得しました。令和9年に開催される全国和牛能力共進会に向けて、関係機関と共に種牛（しゅぎゅう）能力の向上に取り組み、地域の特色を活かした産地づくりを図ってまいります。

**農業の担い手の確保・育成**につきましては、認定農業者等、地域の中核的な担い手の育成や後継者の確保に向け、収益力を高める支援の強化や、就農促進の仕組みづくりを推進してまいります。

**生産基盤の整備**につきましては、令和6年度に策定した地域計画に基づき、担い手への農地集積やため池・排水施設の改修、防災・減災対策による安定した生産基盤の確保を図ってまいります。

また、地域共同による地域資源の保全や、多様な取り組みによる集落機能の強化などを行う農村RMOの活動を支援してまいります。

**有害鳥獣対策**につきましては、近年、生息範囲が拡大しているニホンザルやニホンジカへの対策として、防除指導役となる実施隊員の増員による体制強化、GPS追跡装置による生息実態把握調査、個体数の調整など、捕獲・防除対策の拡充を図ってまいります。

**林業・木材産業**につきましては、デジタル化技術の活用により森林境界の明確化と森林の集約化を進めてまいります。

また、森林環境譲与税を活用した路網整備などにより、効率的に原木の増産を図るとともに、循環型林業を推進し、林業・木材産業の成長産業化の実現を目指してまいります。

**水産業**につきましては、新規就業者の初期投資の軽減や所得向上に繋がる取り組みを支援し、沿岸の自営漁業者が安定した経営を実現できる環境を整えてまいります。

また、県内有数の水揚げ拠点である和江漁港につきましては、県央の中核漁港として漁船が安全に水揚げしやすい漁港となるよう、漁業者をはじめとした関係機関と連携して環境整備に取り組んでまいります。

**企業誘致**につきましては、テレワークの普及により、企業の地方進出や「転職なき移住」といった新しい働き方が広まり、新たな企業や人材を地域に呼び込む機運が高まっています。こうした状況を好機としてとらえ、IT系人材向けのオンラインセミナーの開催や、積極的なプロモーション活動の展開により、特に成長著しいIT系の企業および専門人材の誘致に一層注力してまいります。

**書店誘致**につきましては、令和6年3月以来の無書店自治体という状況を打開するため、新たな制度により、書店の進出を促してまいりました。既に公募により進出企業が決定し、現在、開店に向けた準備が進められています。新たな書店は、市民の知的好奇心を満たし、読書文化を育む地域の「知の拠点」となるものです。この書店が地域に根付き、市民の皆さまに末永く愛される存在となるよう期待しています。

**人財の育成**につきましては、意欲のある企業の若手後継者・経営者、起業・創業希望者を対象に、「おおだ未来創造塾」を開催し、この9年間で延べ389人に受講していただきました。引き続き、第一線で活躍する経営者や専門家から、今後のビジネスモデルや新事業の創出方法等を学ぶとともに、異業種交流も図り、より深化した内容のセミナーを開催することで、将来の地域経済を牽引する人財を育成してまいります。

また、高校生の地元就職や若者のU・Iターン就職の促進を図るため、小・中学生やその保護者に対しても、市内企業の魅力を伝える取り組みを強化するなど、将来的な人財の確保に向け、ハローワークや島根県、市内外の高校、専門学校、大学などとの連携を強化し、取り組みを進めてまいります。